

薬の効果と副作用を研究する “免疫組織化学的薬物動態学”

～細胞レベルで薬の影響を解明～

薬を飲んで「病気はよくなったけど、別の箇所の具合がよくないな」と感じたことはありませんか？ 具合が悪いときは薬を飲むと思いますが、薬はその病に対して効果を示すとともに副作用はできるだけ少なくなるように、適正に使用されなければなりません。そのためには、体内で薬がどのような振る舞いをするのか知る必要があります、これを研究する学問を“薬物動態学”といいます。通常、薬物動態学では血液中の薬の濃度の時間経過による変化を調べます。しかし、私たちは個々の細胞レベルで、薬が入って行くのか行かないのか、いつまでその細胞に留まるのか、などを“免疫組織化学”という方法で研究しています。これまでに、血液中からは1日ぐらいで消えてしまう薬が、ある細胞の中には1週間以上留まっていることを発見したこともあります。このようなデータの積み重ねが、薬物の効果や副作用のメカニズムの解明に、さらには、より効果的で副作用が少ない薬物療法の開発につながっていくと考えて、日々研究を続けています。



生物生命学部 応用生命科学科 **進正志** 教授



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

薬学部	生物生命学部	工学部			情報学部	芸術学部			
薬学科	応用微生物工学科	応用生命科学科	機械工学科	ナノサイエンス学科	建築学科	宇宙航空システム工学科	情報学科	美術学科	デザイン学科

〒860-0082 熊本市西区池田 4-22-1

問い合わせ(入試課直通) TEL:096-326-6810

そうじょう大学 [検索](#)